

行政懇談会

市民の声を 市政に反映

行政懇談会は、市民の市政に対する声（意見・要望等）を直接聴いて、行政施策にできるだけ反映させていくという目的で開催されています。

平成20年度の行政懇談会は、3回開催され、市政の現状・今後の方向性を示す市長講話で始まり、その後参加者と行政との活発な意見交換が行われました。

その行政懇談会において各自治会から議題として提出された意見・要望等の一部をご紹介します。

前田自治会 茶山自治会 浦添グリーンハイツ自治会 合同行政懇談会

・8月6日（水曜日）
・場所 前田公民館
・参加人数 38人
・市長講話
「浦添城跡整備及び周辺地域の環境整備について」

自治会からの意見・要望等

- 【前田自治会】
①県道38号線の道路拡幅について
②現在工事中中の国際センター線の工事の早期着工について
【茶山自治会】
③団地中央道路の整備について
④団地の北西側にある県住宅公社残地の公園化について
【グリーンハイツ自治会】
⑤浸水対策
⑥交通渋滞対策



意見・要望等

県道38号線の道路拡幅については、モノレール事業との関連があると思いますが、交通渋滞緩和のため、早期着工を望みます。

回答

浦添市で唯一、東西方向の幹線道路である県道38号線は、一日あたりの交通量が約2万6千台（H17センサス）、また混雑の状況を示す混雑度が1・98となっています。これは現在の2車線の交通容量に対して1・98倍の交通量があることを示すものであり、その結果として慢性的に交通が混雑している状況となっています。

県道38号線は、正式な名称が「県道浦添西原線」となっており、文字通り浦添市と西原町を結ぶ重要な路線として位置づけられております。現在県では、県道38号線の西原町の区間を4車線（幅員30m）として都市計画決定し、国道329号の側から浦添向けに事業を進めており、浦添区間については西原町の区間が整備され次第、順次整備を図っていく予定とのことです。

しかし、去る3月の「沖縄都市モノレール延長検討委員会」において、「首里駅から沖縄自動車道までのルートは

意見・要望等

現在、西海岸道路工事に関連する道路工事で、港川道路工事が予定されておりますが、完成後における交通緩和は、市民及び県民にとっても喜ばしいことであります。

一方で、現在のゼネラル給油所を角とする、国道58号と、城間通り、そして新しくできる港川道路完成後に変形十字路が変形五差路になり、中央分離帯よって閉鎖されるようですが、今後における城間住民の生活にどのような支障を及ぼすのか。そして、どのような改善策を行うのか説明していただきたい。

回答

本市では、国道58号の牧港、勢理客及び国道330号の沢岬の3つが、九州・沖縄の一般道路における交通量の多さにおいて上位3位を占めています。また、沖縄地方渋滞対策推進協議会（沖縄総合事務局）が策定した「那覇都市圏交通円滑化総合計画」では、国道58号の城間交差点が主要な渋滞ポイントとして挙げられています。これは、那覇方面から北上し、サンパーク通り又は城間通り（以下「城間線」）へ右折しようとする車両が本線にはみ出し、本線の通行を妨げていること



浦添ルート案を推奨する」との答申がなされています。今後、モノレールの浦添ルート案が正式に決定されたならば、その供用開始は平成31年度頃になるとのことですので、県道38号線の浦添区間についても、当然、モノレールの開業に合わせて拡幅の整備が急がれるものと考えています。

これまで、県道38号線の4車線化については、拡幅事業の目処が立たないまま都市計画決定した場合、長年にわたって土地利用が制限される可能性があり、地主の方々の十分な理解が得られない等の理由から、タイミングを見計らっていました。今後、モノレールの導入等により、具体的に4車線化の目処が立つのであれば、本市としても県道38号線の4車線化に向けて鋭意努力していきたいと考えています。

（都市建設部 都市計画課）



城間自治会 浦城自治会 浦添ハイッツ自治会 合同行政懇談会

・10月1日（水曜日）
・場所 城間公民館
・参加人数 35人
・市長講話
「浦添市の将来の都市計画について」

自治会からの意見・要望等

- 【城間自治会】
①港川道路工事に伴う中央分離帯閉鎖について
②城間通り拡張について
【浦城自治会】
③自治会事務所建設について
④ナショナル前道路開通にあたって
【浦添ハイッツ自治会】
⑤公民館早期建設について
⑥自治会内にある小公園と道路を市に早期移管することについて

